資料２

2026 年　地域福祉部会

アンケート結果報告（抜粋版）

2026 年８月

１．調査目的

本アンケート調査は、地域福祉に関する意識やニーズを調査し、計画策定の基礎資料とするために実施した。

２．方法

⑴調査票の配布方法

町内在住の満 20 歳以上の住民（外国籍含む）から性別・年齢階層別の比率で対象を無作為に 800 人抽出し配布した。

⑵調査期間

①発　　送：2026 年 6 月 15 日（月）

②回収期限：2026 年 7 月 10 日（金）

３．調査票配布先

調査票は、下記の表のとおり、性別・年齢階層別に対象を抽出し、配布した。

年齢階層	性別		全体
	男	女	
20 代	57	46	103
30 代	53	38	91
40 代	80	75	155
50 代	64	63	127
60 代	65	64	129
70 代	57	59	116
80 代以上	31	48	79
全体	407	393	800

４．調査票

調査票は、報告書末に掲載した。

５．結果

（１）　調査票回収率

調査票を返送した者は 346 人であった。

よって、調査票の回収率は、346 人／800 人＝43.3%であった。

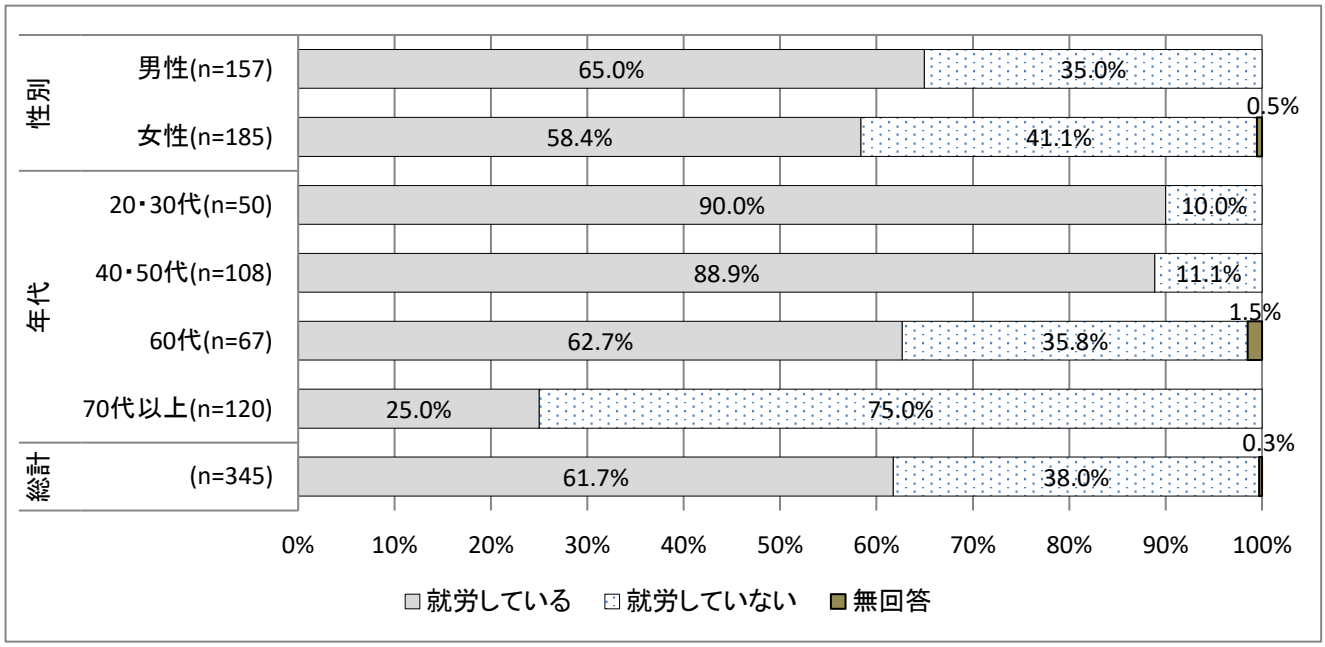
（２）　解析対象者

回収した 346 人分の調査票のうち､性別または年齢についての情報が欠損している者（無回答）が 1 人いた。

欠損者を除いた 345 人（回収率 43.1%）を解析対象者とした。

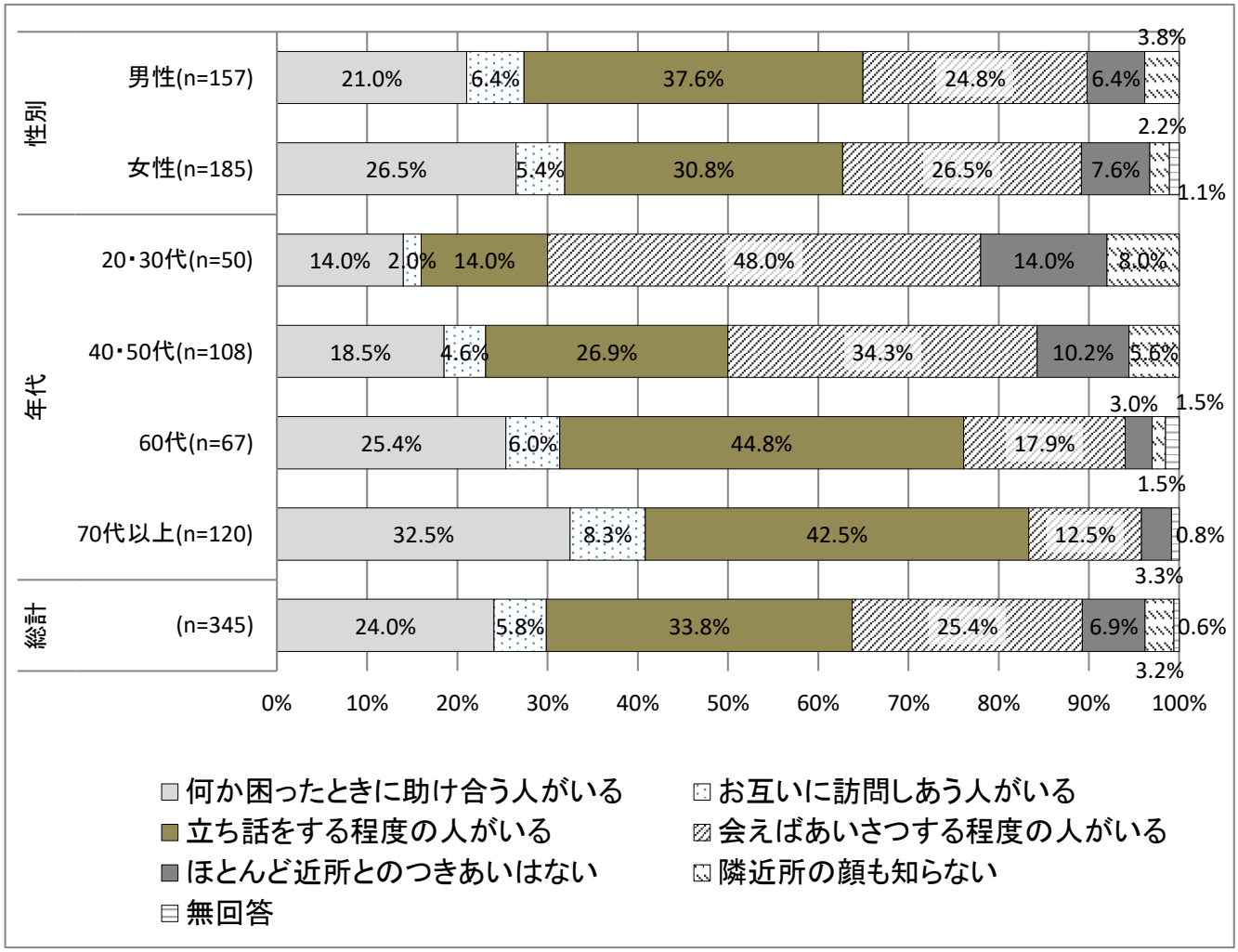
年代を 20・30 代、40・50 代、60 代、70 代以上の 4 階層に分け解析を行った。

問６．就労状況



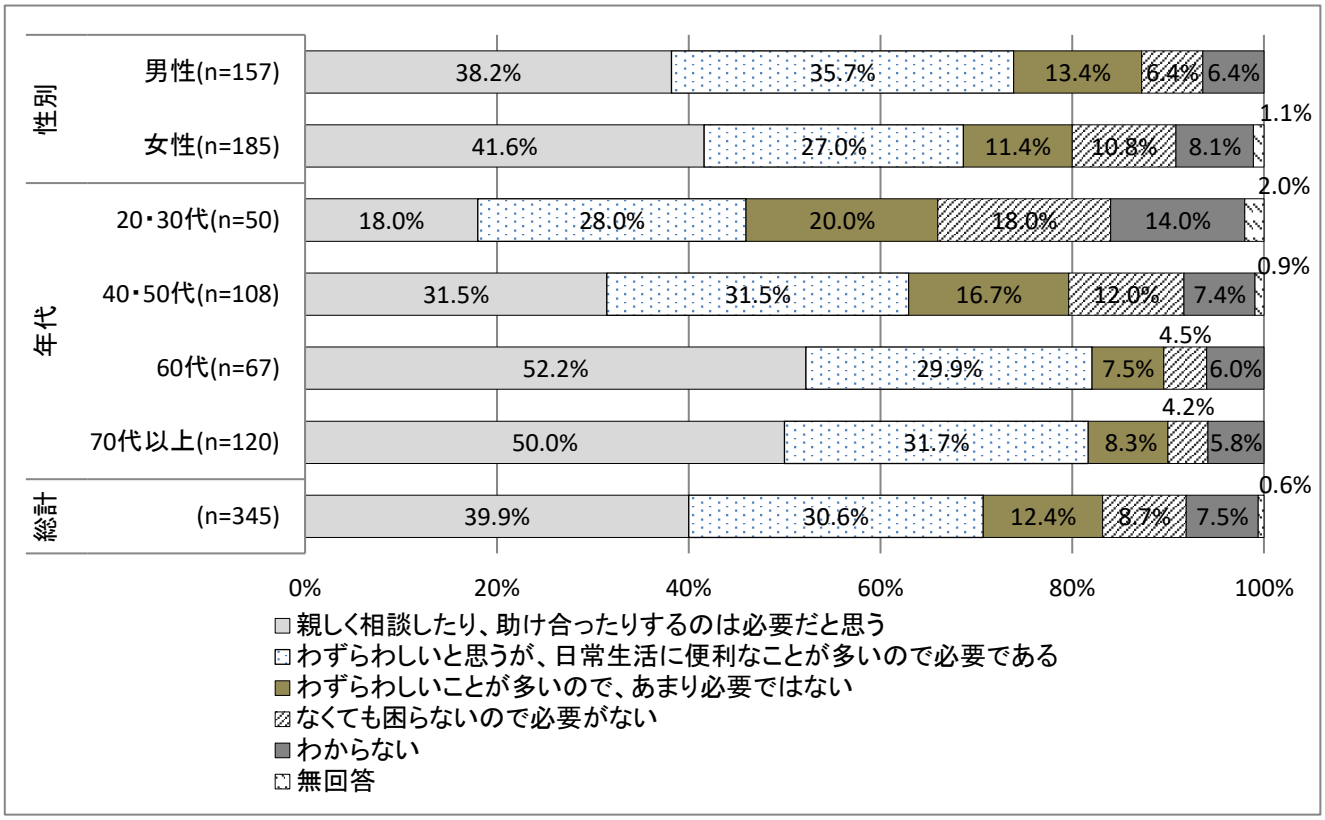
全体の 62%が就労している。男性 65%、女性 58%で、男性のほうがやや高い。
20・30 代は 90%、40・50 代は 89%が就労しており、60 代では 63%、70 代以上では 25%となっている。

問７　ご近所との関係は次のどれに最も近いですか



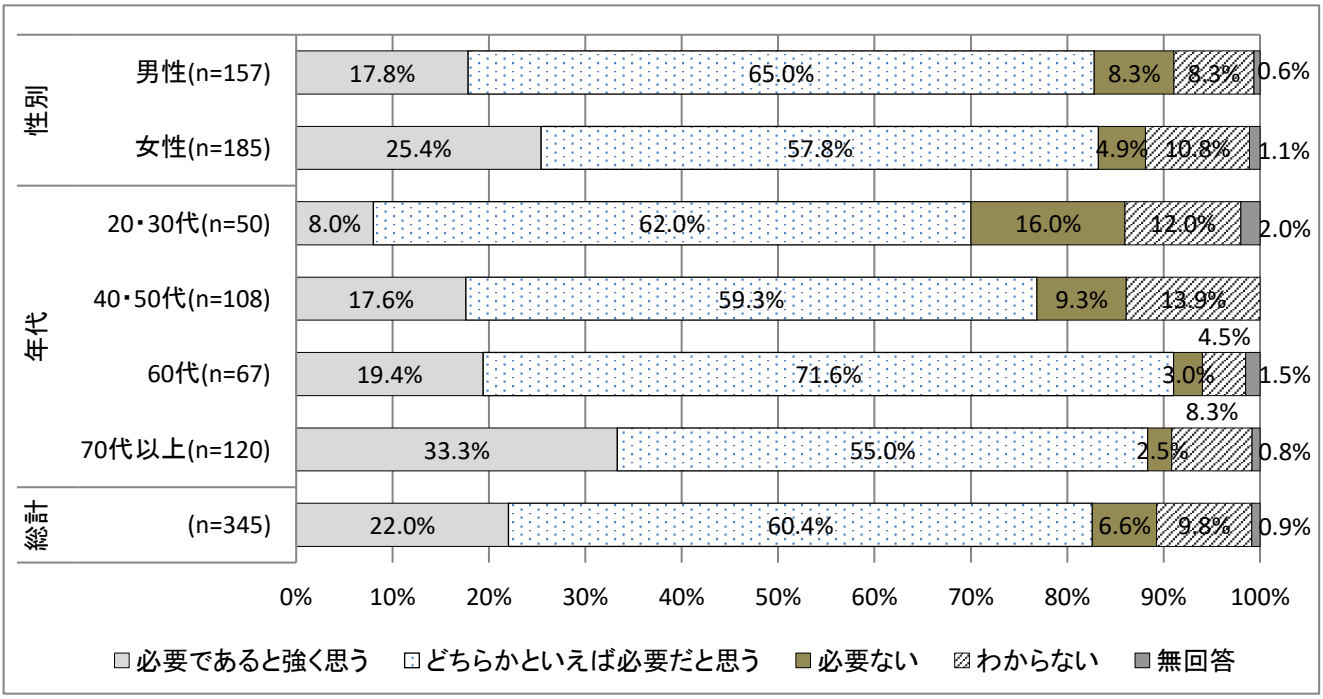
全体では「立ち話をする程度の人がいる」が 34%で最も多く、「会えばあいさつする程度の人がいる」25%、「何か困ったときに助け合う人がいる」24%の順となっている。年代が上がるにつれて「助け合う人がいる」割合が高くなる。

問８　ご近所とのつきあい方の考え方は、次のどれに近いですか



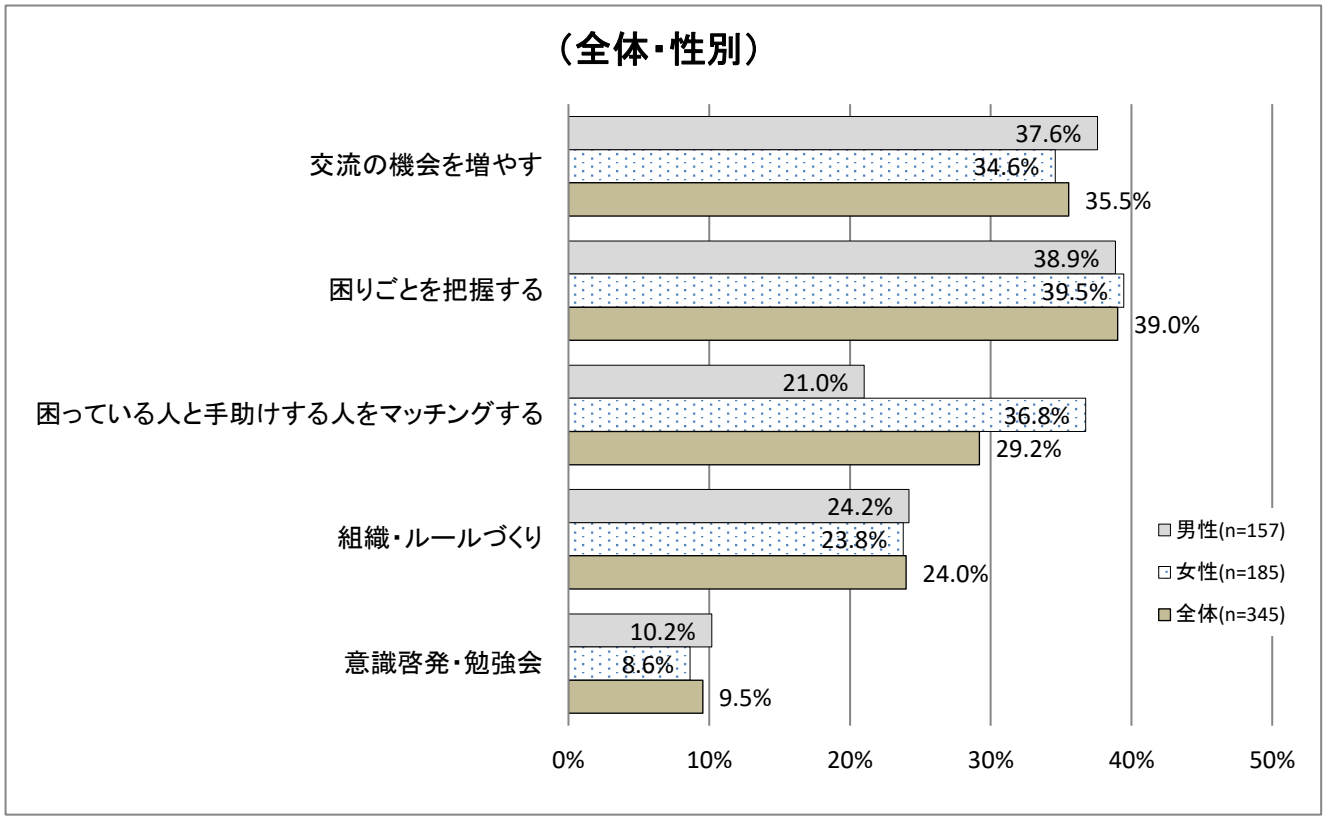
全体の約 40%が「親しく相談したり、助け合ったりするのは必要だと思う」と回答している。
60 代、70 代以上では約 5 割が「親しく相談したり、助け合ったりするのは必要」としている一方、20・30 代では 18%であり、近所づきあいに対する考え方には年代差が見られる。

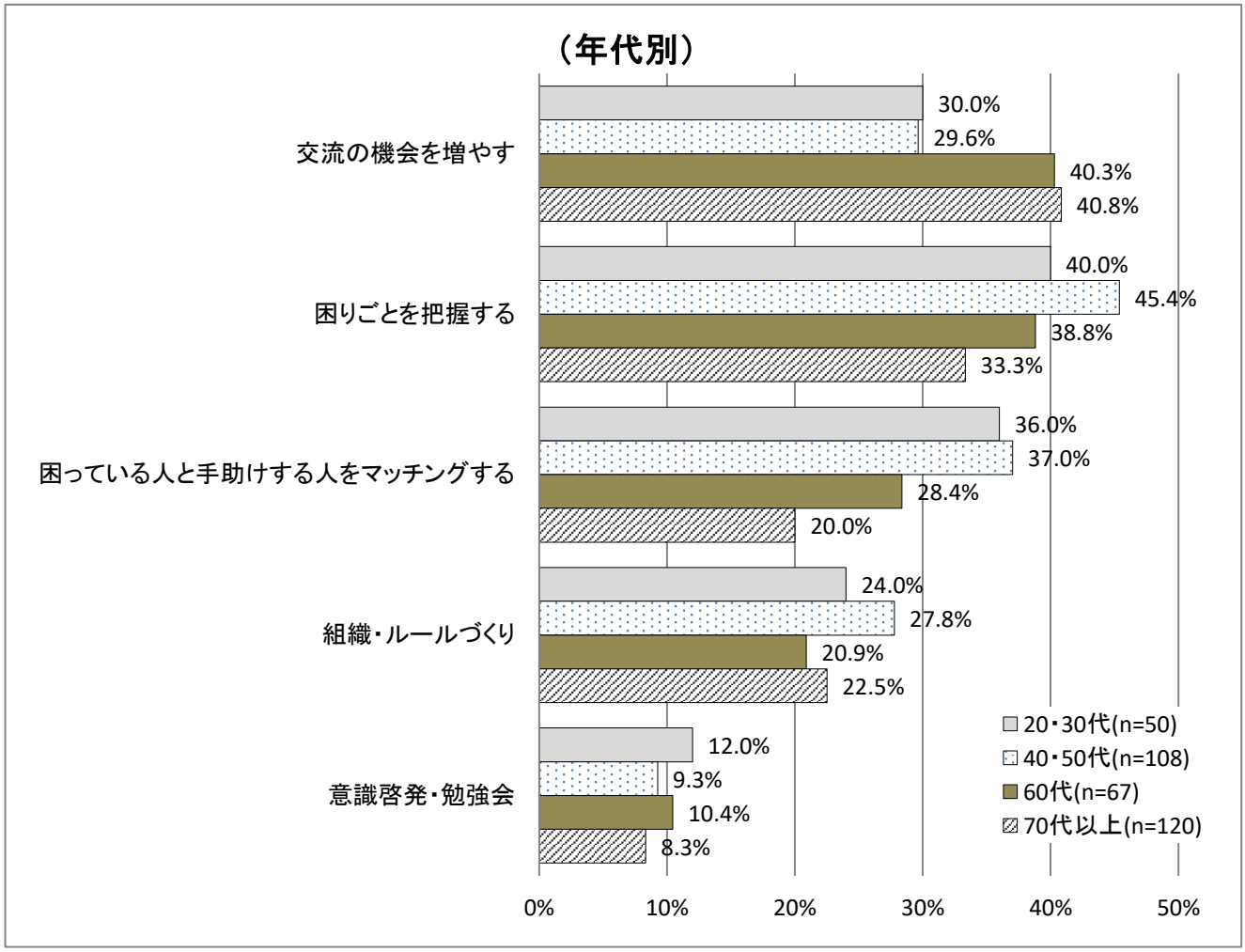
問９　地域やご近所での「支えあい活動」は必要だと思いますか



全体では「必要であると強く思う」が 22%、「どちらかといえば必要だと思う」が 60%で、合わせて約 82%が支えあい活動を必要と考えている。60 代・70 代以上では約 9 割、20・30 代では 7 割となっており、「強く思う」は 70 代以上が 33%で最も高い。女性は男性より「強く思う」割合が高い。

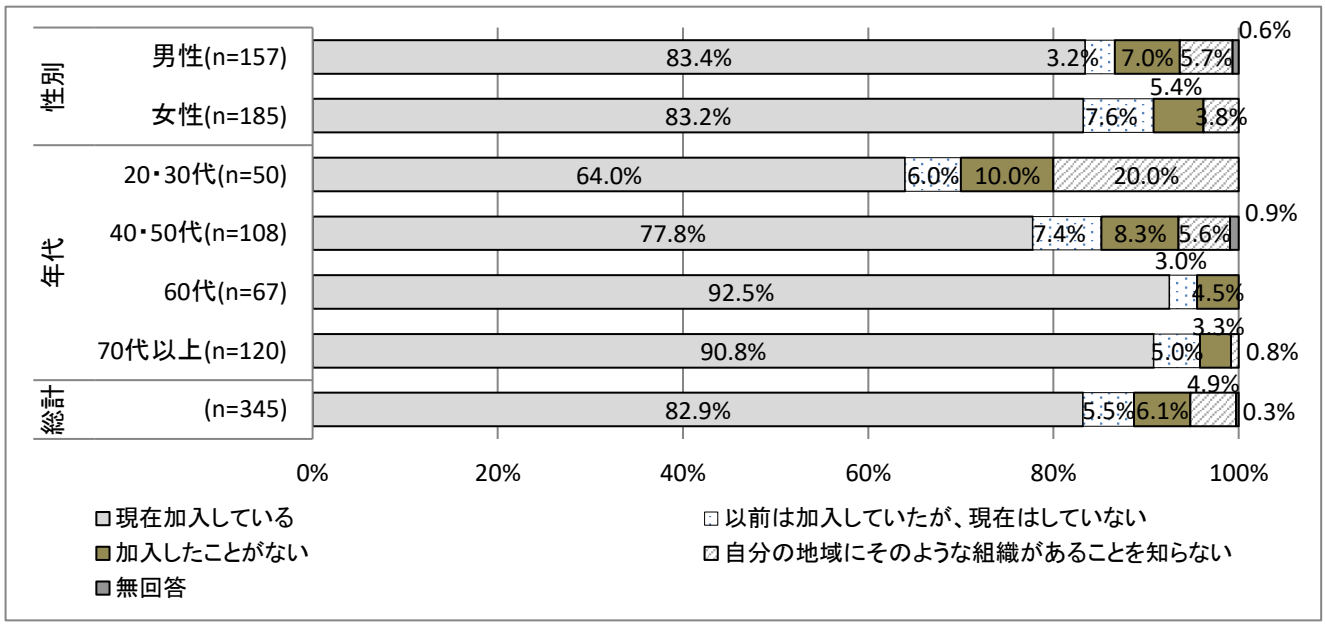
問 10「支えあい活動」を充実させるために、どんな取り組みが必要だと思いますか（複数回答）





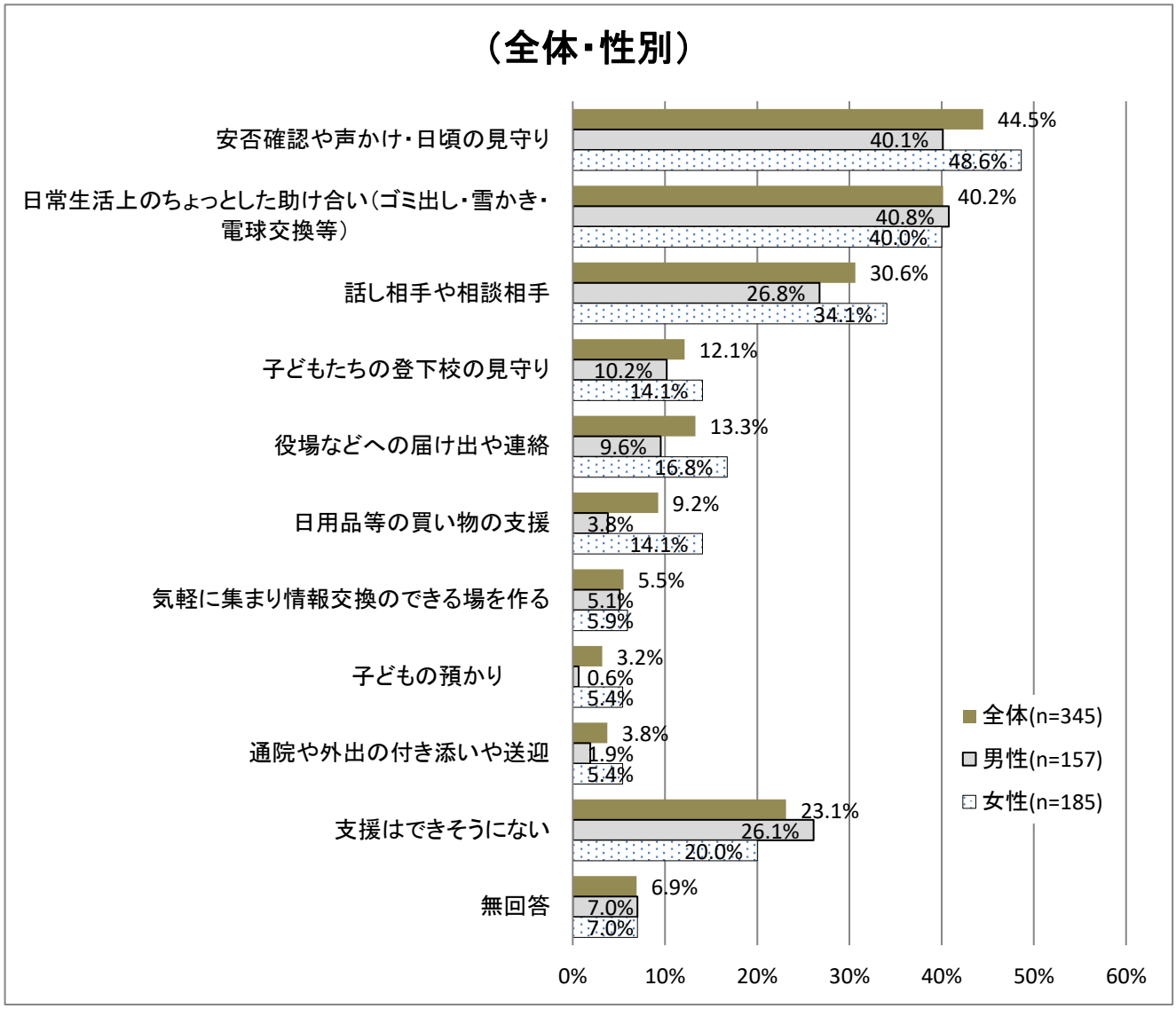
全体では「困りごとを把握する」39%、「交流の機会を増やす」36%、「困っている人と手助けする人をマッチングする」29%の順であった。「意識啓発・勉強会」は 10%と低い。マッチングは女性 37%、男性 21%と差がみられる。

問 11　常会に加入していますか

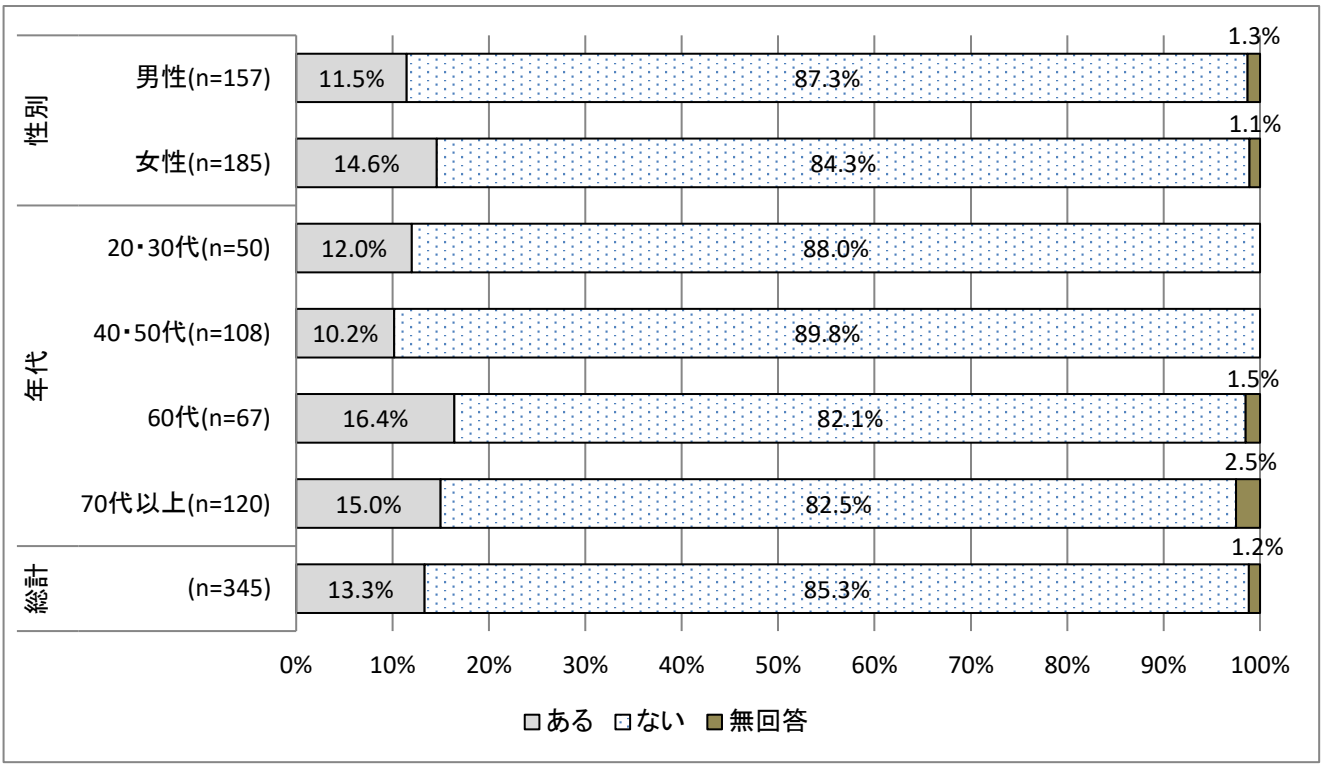


全体の 83%が常会に加入している。60 代以上では 9 割を超え、40・50 代は 78%、20・30 代は 64%となっている。20・30 代では「そのような組織があることを知らない」が 20%みられる。

問 12　ご近所の人が困っているとき、あなたができることやできそうなことは何ですか。（複数選択）

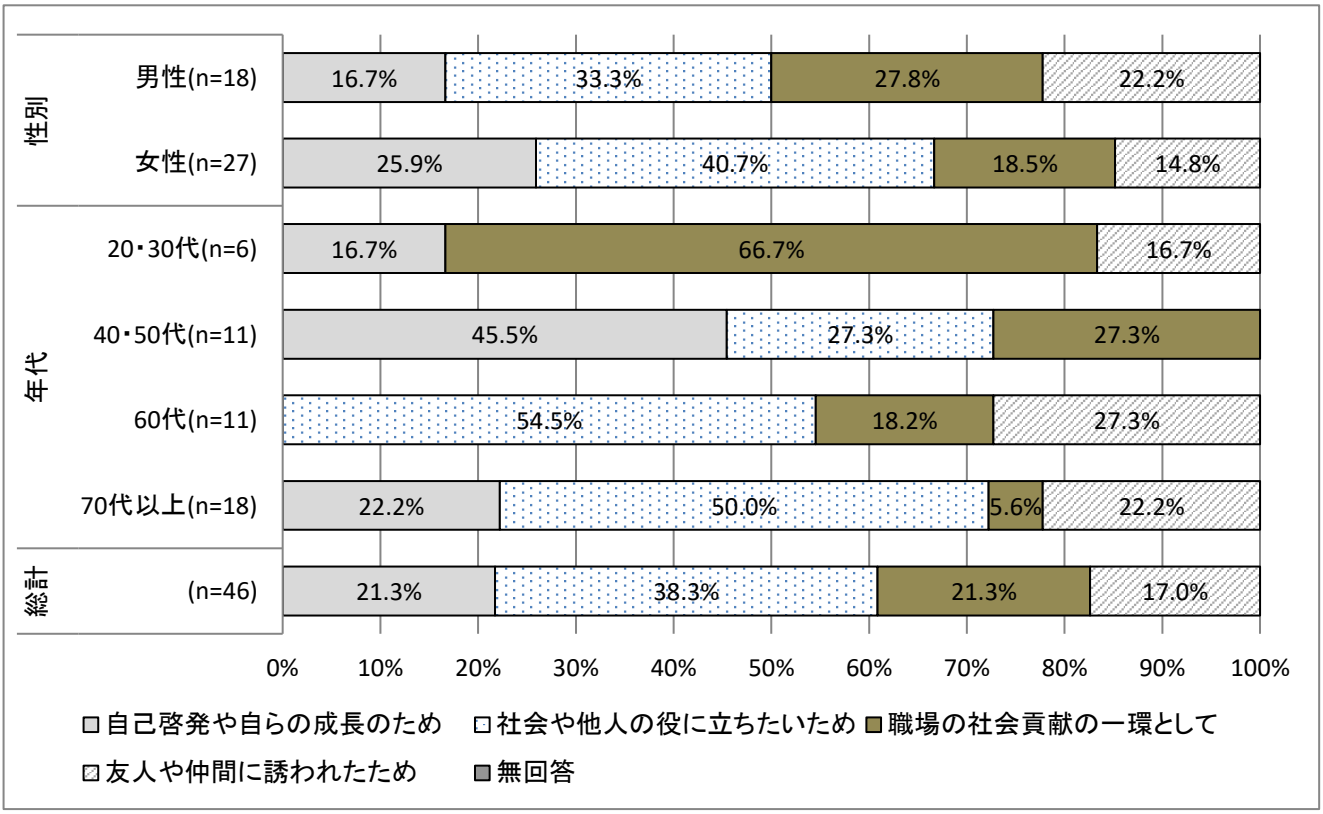


問 15　ここ１年の間にボランティア活動に携わったことがありますか。
※ただし地域の奉仕活動は対象外とします。



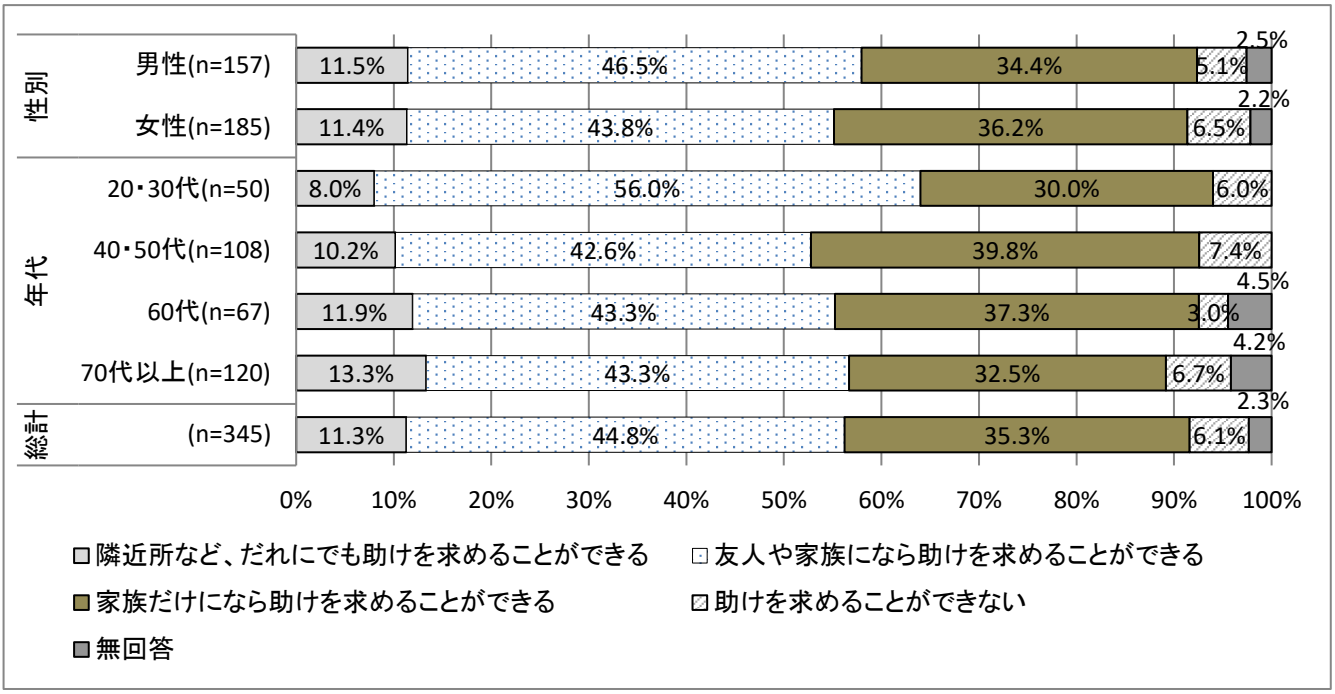
ここ１年間にボランティア活動に携わったことがある方は全体の 13%であった。年代別では 60 代が 16%で最も高く、70 代以上 15%、20・30 代 12%、40・50 代 10%となっている。

問 16　【問 15 で「１　ある」とお答えした方にお聞きします】
あなたがボランティア活動に参加をした理由は何ですか。（一番当てはまるもの１つに○）



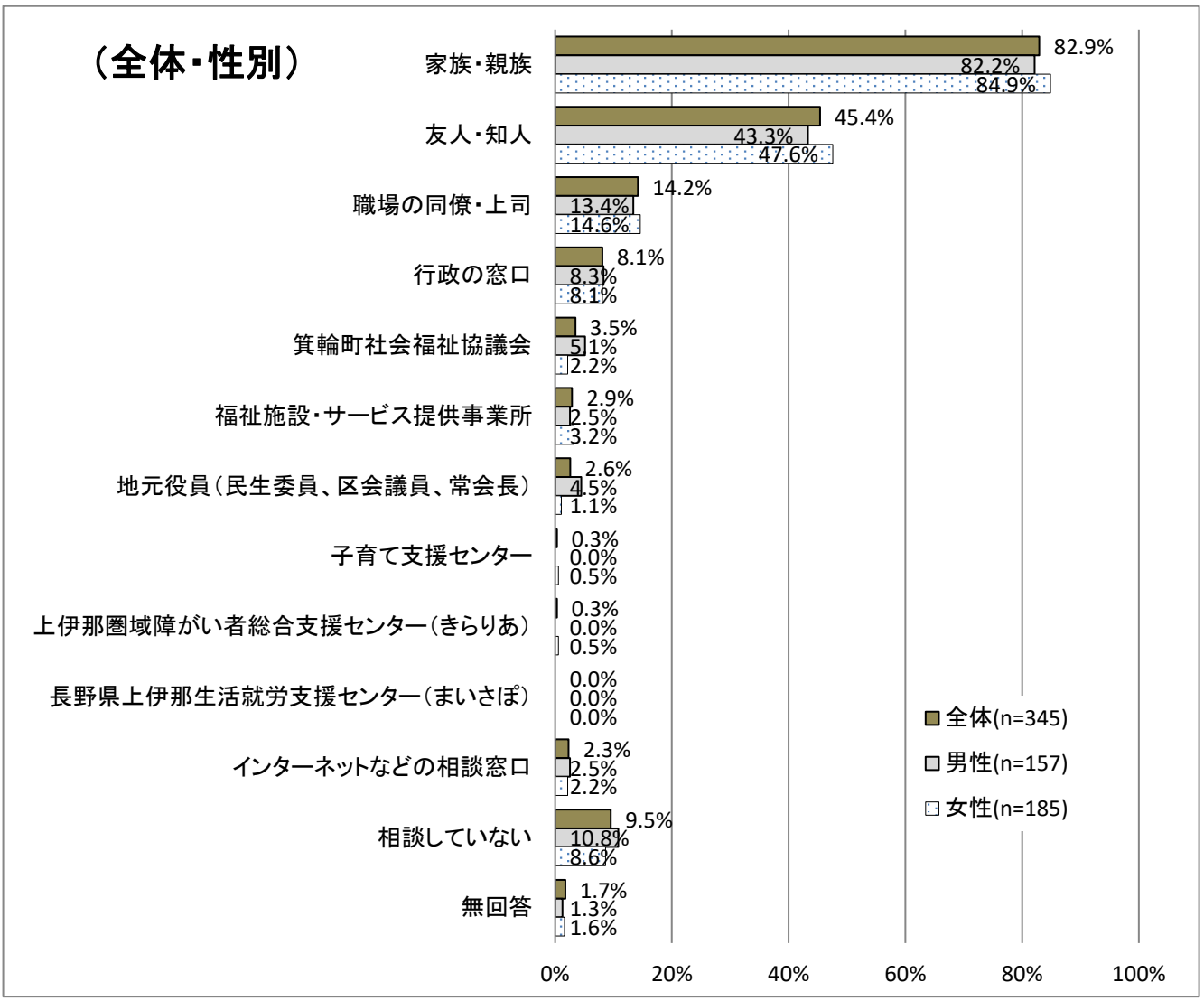
全体では「社会や他人の役に立ちたいため」が 38%で最も多く、「自己啓発や自らの成長のため」と「職場の社会貢献の一環として」がともに 21%、「友人や仲間に誘われたため」が 17%であった。

問 20　あなたは困っている時に助けを求めることができますか。（○は１つ）

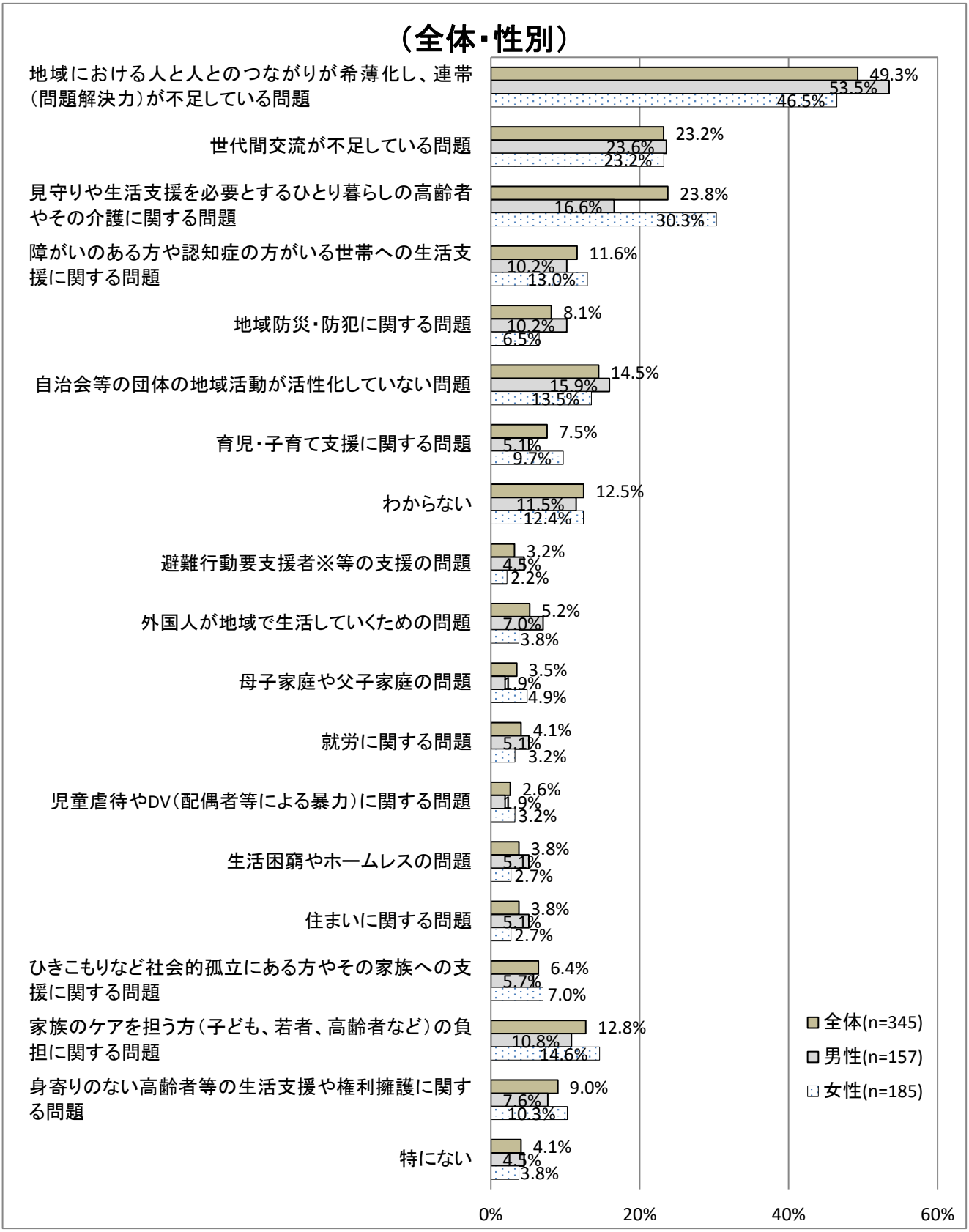


全体では「友人や家族になら助けを求めることができる」が 45%で最も多く、「家族だけになら」が 35%、「隣近所など、だれにでも」が 11%の順である。「だれにでも」は年代が上がるにつれてやや増加し、6%は「助けを求めることができない」と回答している。

問 21 あなたが悩みや不安を感じた時や生活に困った時、誰に相談をしていますか。（複数選択）



問 24　地域福祉の中での問題や課題は何だと思いますか。（最大３つまで回答）



全体では「地域における人と人とのつながりが希薄化し、連帯（問題解決力）が不足している問題」が 49%で最も多く、次いで「見守りや生活支援を必要とするひとり暮らしの高齢者やその介護に関する問題」24%、「世代間交流が不足している問題」23%となっている。

男女とも「人と人とのつながりの希薄化」が最も多く、男性 54%、女性 47%である。女性は「ひとり暮らしの高齢者やその介護に関する問題」が 30%と男性 17%より高く、「家族のケアを担う方の負担」も女性 15%、男性 11%となっている。